Extension Lectures

医療講座

解説　内科
蓮井 桂介 医師

■ 免疫と炎症のおはなし

私たちの体には、細菌やウイルスなどから体を守る「免疫」というしくみがあります。免疫の中心となる白血球は、体に害を及ぼすものを攻撃して排除します。このときに起こる反応が「炎症」で、赤み、腫れ、熱感、痛みなどの症状として現れます。

■ 全身のさまざまな臓器に炎症を起こす免疫の病気「膠原病」

本来なら体を守るはずの免疫が、誤って自分自身の体を攻撃してしまう病気があります。そのうち、皮膚や関節など体を支える組織に炎症を起こす病気には、「膠（にかわ＝コラーゲン）」が関係していると考えられ、「膠原病」と呼ばれるようになりました。現在では、**肺、腎臓、神経、血管など全身のさまざまな臓器に炎症を起こす免疫の病気**であることがわかっています。

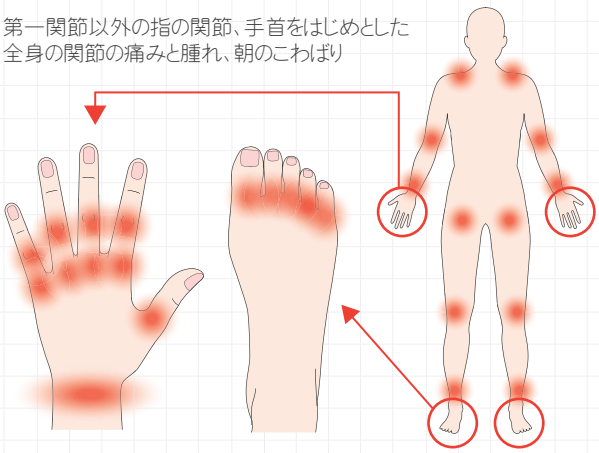
原因は、複数の遺伝的な要因、環境要因などが重なり、免疫のバランスが崩れることで発症すると考えられています。何か1つの原因だけで起こる病気ではありませんので、発症してもご自身を責める必要はありません。

■ 主な膠原病とその症状

膠原病の症状はさまざまですが、発熱、だるさ、関節の腫れ・痛みは比較的共通してみられます。

関節リウマチ

第一関節以外の指の関節、手首をはじめとした全身の関節の痛みと腫れ、朝のこわばり



全身性エリテマトーデス

発熱、関節痛、頬や鼻に赤い発疹、日光発疹、脱毛、口内炎、むくみ

シェーグレン病

唾液が少なく口が乾く、涙が少なく目が乾く

皮膚筋炎／多発性筋炎

肩や太ももなど体の中心に近い筋力の低下や痛み、 手、目の縁、首や背中の皮疹

強皮症

寒いところで、指が真っ白になる（レイノー現象）、指先から皮膚が厚くつっぱる、指先の潰瘍（ただれ）、空咳

混合性結合組織病

レイノー現象、指の腫れ、関節痛

血管炎症候群（複数の疾患があります）

発熱、関節痛、しびれ、空咳、皮疹

■ 「膠原病」と診断されるまで

膠原病は、1つの検査だけでは診断できません。**診察所見に加え、血液検査、尿検査、画像検査などを組み合わせて総合的に判断します。**時間の要素を加えて経過をみながら診断していく場合もあります。

■ 治療は進歩し、病気を良好にコントロールできるように――

診断後は、患者様と医療者が相談しながら治療方針を決定し、寛解（症状が落ち着いた状態）を目指します。

治療には、炎症を抑える薬や免疫を調整する薬を使います。炎症を抑える薬としてステロイド薬は重要ですが、近年は必要最小限に使用するという考え方が主流です。また、免疫の異常な働きを狙って抑える生物学的製剤などの治療も進歩し、多くの患者様が病気を良好にコントロールできるようになってきました。

膠原病を予防する方法はまだありませんが、「いつもの体調不良と違う」「症状が長引いている」「複数の症状が重なっている」と感じたときは、お気軽にご相談ください。